

(様式1)

自己評価表

愛媛県立今治高等学校定時制
学校番号 14

教育方針	知・徳・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。	重点目標	1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じて分かりやすい授業を 実践し、授業満足度・理解度を85%以上 とする。 A : 85%以上 B : 84~82% C : 81%~79% D : 78~76% E : 75%以下 ICT機器を積極的に使用するなど授業 改善を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは、授業に満足してい る、授業が理解できていると答えた生徒 がともに84%と昨年度より増加した。た だ、家庭学習時間や資格への挑戦などを 含め、積極的な学習への取組が不十分で ある。ICT機器の活用度については、 4%昨年度より高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の入学前の状況や進路を把握したう えで授業計画を立てるなど、状況に応じ た工夫をする。 生徒自身の学業における目標を明確にし る。 EILSやFormsを使用するなど、1人1台 端末を積極的に活用する。
	新学習指導要領に対応した指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> 学習の評価規準を有効に活用し、教員と 生徒が自身の学びを改善できるようにす る。(教員と生徒の意識差をなくす。) A : 0% B : 1~3% C : 4~6% D : 7~9% E : 10%以上 	C	<ul style="list-style-type: none"> アンケートより、教員の授業の工夫(76)が生徒の主體的な学び(72%)には つながっていないことが推測される。特 別活動や総合的な探究の時間の評価も今 後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや各単元で実施する生徒の振 り返りを分析して授業改善に役立てる。 主體的な学びにつながるように、資格取 得や校外の説明会の紹介などを、生徒や 保護者に行う。
	個別学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度・進路希望に応じて0限を利用し た個別指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 0限で学ぶ生徒は本年度2名だが、英検 取得のための支援なども行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望を踏まえうえで、計画的に個 別指導を行う。
生徒指導	規範意識と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年間出席率95%以上、皆勤率80%以上を 目指す。 A : 95%以上 : 80%以上 B : 94~92% : 79~75% C : 91~89% : 74~70% D : 88~86% : 69~65% E : 85%以下 : 64%以下 保護者との連絡を確実にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より出欠管理システムを変更して 指導を工夫したところ、1月までの出席 率は93%、皆勤率は84%と大きく改善し た。一部の生徒に欠席や遅刻が集中して いるのでより丁寧な指導が必要である。 一部の生徒は、本人・保護者との連絡が つきにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識や家庭環境などを踏まえう えで、それぞれの生徒にとって公正な指 導を行えるように、教員間で情報共有と 意識統一を図る。 マチコミ登録率100%をめざす。また、 緊急時以外の使用について企画を立てる など、保護者との連携方法を工夫する。
	学業と就業の両立支援	<ul style="list-style-type: none"> 個別面接を年間6回以上行う。生徒の状 況に応じて、個別に話す場を設定する。 A : 6回以上 B : 5回 C : 4回 D : 3回 E : 2回以下 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事として設定されている個別面接 の時間以外にも、必要に応じて相談に応 じているが、担任間で意識の差がある。 意思の疎通の難しい場面もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングマインドを養うための研 修の場を設ける。 どの教員にも相談できるような雰囲気 を作り、生徒と保護者にも周知する。
	学校行事・部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の役割分担を明確にして、生徒 全員が主體的に参加する環境を作る。 四国大会・全国大会への出場を目指して 積極的に部活動に取り組ませる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 縮小された学校行事も含め、工夫して実 施することができた。部活動も、全国大 会に1名、9月の県総体にも3年ぶりに 参加したが、活動自体は停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見が生かされるように、スケジ ュールを調整する。 各生徒の部活動への姿勢に合わせて、練 習環境を提供できるようにする。
進路指導	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 三修制を選択した生徒の進路指導を効果 的に行う。保護者との連携を密にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に資格試験に挑戦する生徒もい る一方で、進学後が心配な生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的問題や家庭の問題で生徒の進路が とん挫しないようにする。
	就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現の道筋をイメージできるよう、 仕事に関する講話などを増やす。 	D	<ul style="list-style-type: none"> アルバイトの継続を希望し、就職を積極 的に希望する生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校時代のアルバイト経験をキャリア教 育に生かせるよう工夫する。
業務改善	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 日直制度の見直しを行う。 テレワークを積極的に導入する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 業務を明確にすることで公平性は増した が、逆に一部の教員からは不満も出た。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修など、テレワークを積極 的に活用する。
	職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 業務の連携と引継を計画的に行い、コミ ュニケーションの活性化を図る。 教職員の勤務時間・休憩時間を守る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒も教員も少人数であるため臨機応 変に対応できるが、それが弱点でもある。 時間外労働に関する問題はほぼない。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の振り分けを再考するなど、連携と 引継がスムーズに行えるような環境を整 える。